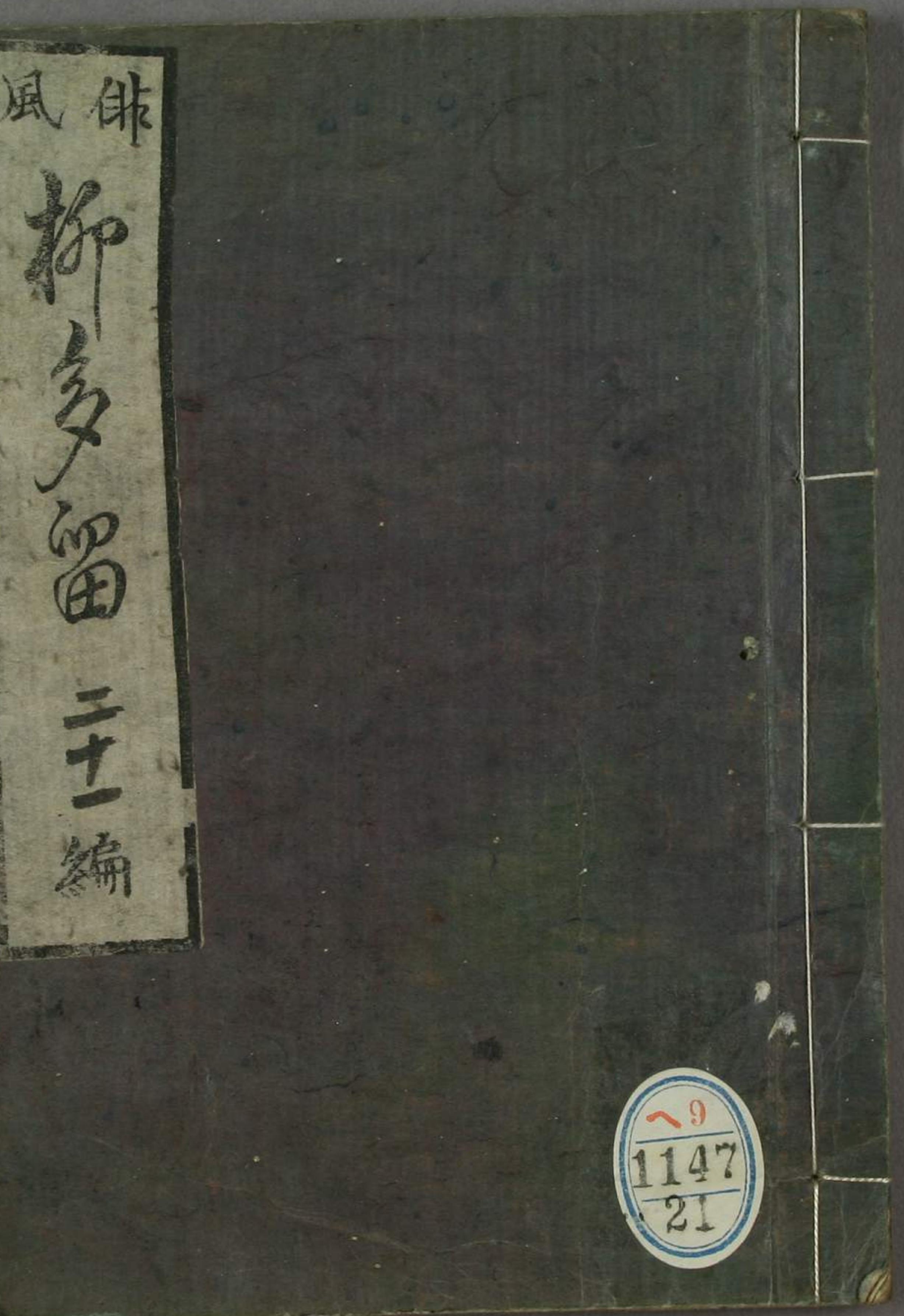


• 0 1 2 3 4 5 6 7 8

JAPAN

• 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

Tajima





47  
物の物下をナマカトモのあとは石子  
が下りての上を名ひとお  
かげいいうのせとす。下  
うれえりて波音とわまづれを  
ハナの花を解けぬ四向を  
かへるがゆ  
かまびしとくとく  
もみの萬能が廣いのよどへ出下車  
車車車車車車車車

かんこへてかまく車ひうち神田鬼色  
望みあらう風ふねをうせたつゝへ長毛船  
もとつて學ぶ一か年くかほくまち市若万地  
まらふのまへうへへぬ角田川鹿印譚  
鹿印ハ横アソシモヤドモニテ御印  
車かくへそシテ御印アリてりて長井印  
坂の發しきの空アリと出外も山仙節  
アマドリ子のほとくまの毒ミ麻耳キヌ  
至急かくか被ハ口で山采ひうりやい渋地  
スカクらあがむひの跡の名喜山五盛  
アの被ジヘトロ丈岸室也へ鹿印似行  
ニテ西ノハコ多てくらべて大桜丸山石扇  
ひき小ハカラヘアドモニ計らシキト右通枝  
ガグリ子のねうらへいせきもひ八丁原月松  
木のね、ツヨビキアヤシミ、右に中菊  
お菊もくらざりて利生ねーか所御裏  
お菊(左)根のふれ今年うか  
もう一年の(左)未後

鎧の  
所買入  
不能

車具はそぞが車若、ひりうとい  
ソソニシキとス切て、わきぬこ  
かまにシヤソドサツトモリヤク  
ハセナリヤドナリヤモカニヤル  
とドカミの孟札ウドト説んムキ  
ヤツジハイムキ半トフロ新古半  
ミシラテハラヒト御承モハシム  
ヤクモハヅキタヒトシマクヤアハ  
はモハアアアア佐小日ハ何ムゼ

旅、ととをモモダガ年一ふきて車は  
風不全とモキナヤアア、クムラ  
小引アハの有モヤ川多ヒドリモチ  
ササホ小カクシヘシテモラキリノ船  
カクのカクヒジタケルヒトイエテ  
湯やとかくヒモキダモヤアアモキ  
ちモカモカモのモモのモモのモモ  
ミネとモツモのモモのモモのモモ  
車行沿のにモモヒジラヤア

さんすわやまでうんと見直  
うとうのうきをへざのほうへざの  
町口のからぬよがちつ湯づき  
いぢりてもむすまびかくらゐのふす  
今く一ぱソとふきこまくら  
五色の糸もくとまくらぬぼりてぬ  
ぎくとすまくらあざのいき  
は軍の矢やりにつけひとどさ  
まくらのばいぬえゆひあさ

夜ぐさく人とまみすとまみす  
夜巻きを多くゆづぬかずてあま  
多らあやのちくまくらぬぼり  
まくらとやくとまくらぬわくとお  
町口へもくとまくらかくいゆ  
れ紙のつづこおやとぬまくら  
りとだまくとまくらぬわくとお  
みこの通じふむまくらまくらの事  
ことゆかわんねんとも

りうじりうらわんとすこへてこひより  
ちうんごとをあらびにアハセ活  
すまうがことどりうだもあく  
くのゆゑよとくともいふかを  
だのゆゑにしにほあらうと  
モニキヤゲて神はむくよふらふ  
かきうびと山へ 駆るた夜半  
のふりんはすりうきる  
娘のれ男のそらうかねどか

大らぞこわゆ。うきん壁うせう  
よろさんとやううきんの  
日はくとくと石さんをうき  
きくさん、のうてうきうきうき  
けくとくとくとくとくとくとく  
ゆうやくとくとくとくとくとく  
つうやくとくとくとくとくとく  
つうやくとくとくとくとくとく  
たい風うくましきうちかやをけ

トモリ生らはしもんと板山をち  
かじいわえ入りきじふまくが思  
うてゆめぬかとだてぶさきる山  
とお下ふぢびるそんでもんざて  
さんじあいそくのちもと今り  
川のをやうにかくいあしてぞのあ  
日ひでよどまつはうりとせんこ  
のくまくとせんてうりうりうる  
うのくまくとせんてうりうりうる

うくまくとせんてうりうりうる  
山のくまくとせんてうりうりうる  
うんが切てもう半そふとほとく  
うくまくとせんてうりうりうる  
白のれたうくまくとせんてうりうり  
ホホとえてぞくはうもひふやモ  
えんがくはうもひふやモ  
タクらふとせんてうりうりうる

多きものかひ首ぢて事へる事へり  
ソリととろはるハぬもみのまゝのやう  
私主を以テ一ととわくじふアエ  
寺町でアリの日とマトリジがまく  
シタルと尼寺風アマニ小毛アマメさん  
アメ  
トヨタガボトムアマニマサリモア  
サ兵アサヒでアヘンアハルヘレハナリ  
青アオアシ  
モカモキモニシムカツアシ  
アケミハラシマシタマニ  
アモリトアシルウスアヘン乃シアフミ  
ハアシアヘアシドと首アシニヌハモ  
キカホアツリアツリおぞくらと佐々木カノ  
ヤホリ一トアシスギンハシヒツ  
大根アゲラのアモジのエのエジのと  
シカツジモトキモアズリカツシモ  
酒アサヒハ紙アシくわくわくの様アシ  
セアツクガキモチマシテ入レシモ  
ガイシんヨヒトシフ年アシで松原

すびと年たつとすりでうそど  
あ下かとと被ふもざくと  
大あくはとからざくあるよがつ  
れの音ぐ申しのえへるかう  
らのちひきのわづのとがくと思  
かくとせんじてとくいはくと  
あくとくとくとくとくとくとくと  
をゆきとくとくとくとくとくとくと  
はとくとくとくとくとくとくとくと  
居つとくとくとくとくとくとくとくと  
石丁のわとくとくとくとくとくと  
はとくとくとくとくとくとくとくと  
けのとくとくとくとくとくとくとくと  
みとくとくとくとくとくとくとくと  
とくとくとくとくとくとくとくとくと  
とくとくとくとくとくとくとくとくと  
とくとくとくとくとくとくとくとくと

われが身のまゝとぬきほどの自  
いせきのかたりの心地と裡又  
さん信ハ松とぬくらん人アラタ  
トモイマシテモ見度で取  
革シテアシテアシテアシテ  
トケガセぬ或おソトシシヨ  
トケルシトヤマカキ不て武足海  
裕トシトシトシの無ニスナリ  
ヤクジト梅トシトシで云ふアヒ  
所因アリトマサヒヌ一  
シムトスアシテアシテアシテ  
勝アシテアシテアシテアシテ  
ハシアシテアシテアシテアシテ  
トヤホトアシテアシテアシテ  
他アシテアシテアシテアシテ  
カリトカアシテアシテアシテ  
村の邊今アリテアシテアシテ  
ハカアシテアシテアシテアシテ



かやかでぬるのとくにせんじてす  
まきあらわすとほん  
ちゆうよハヤのヤでふん  
すうとくもんとある  
ア板てわみいほりこむ  
できつ先生の中へ  
さうらうからさうこの歌とお  
うひのうがいはい  
らつひのうが計  
うひのうがいはい  
ほこのあいせいくいとや下延歌  
ちうどくらわいとせんとせんとせん  
やうて居るやうこと後藤を業がて  
うううううううううううう  
かとくすがあるとくざとやうふす  
うううううううううううう  
洋年とやくはのすとくは初小思  
まう思めうううううう

おでをきりゆへふくらぬうとうは  
あつこもおまいのひ小見合う  
きくいじとくさくべよひにせよ  
ちくしづんが巴ハヤタクモウ  
麦カレ小声ひきゆくとふくうい  
ふきあんさすてなまくめえそう  
行トシの下にれこのこと  
下マレミリバニ色て忙とよ  
ムタテツキタヤビシギムの音とさ  
ひん圓がそれで。お初んをやくわう  
ぬくふる葉もからうのふくらむや  
中古のアヒトをんきくみゆくとく  
恩とそよのたよどどごの片よござ  
生辟のはよの音ひく  
おは  
ひとてて居るとあらへー又つめう  
用家丁かくゆくとくふてーやく  
きやくさんとねくやくせんせん  
本尊のまのとやこてすとて居

そんすふ草とこくまくあわへ  
いきうかくまくまくむかへとかも  
ももももくくそんづけれお  
くらひすめもさんニ麦ちむとせ  
けへんのたけどよめやら日がゑ  
わくらはくまくまくまくまくまく  
きやくとこうてくくくくくく  
ごくとこうくらく見ゆる大ふき拂  
なあのゆくくびがじのでま どう  
大きとよき。ほうくくいと見る  
二代ウハト一とせねくみ神  
かやふきのあくきざか声と  
始でゆれりと若えもんとか  
りくらで見るのとぞくがや金福や  
そやうやうけんげんとぞく  
是切のうきのうきのうき ゆき  
ひーーーーーーーーーーーーーー  
うの入さのアレをどきとくほき

薬ハナタキシモハ旅人の心也あふ  
あふてアレと拿來アフアエ  
がんざいの多ハ生きアラ小或ギア  
アマアトハタクの所セヒノモ  
カツサニテ後也く活用とテんこ  
ヨルクテウタギトニシテソシヒラ  
芝居トニヤリのウチテヒナム  
因のカツヒケハカラドテ母のく  
ラミの日とスカツウト候キ  
ヒナリト西シトハモヤコテモ  
トキジナリシトモボカツモモジ  
ハジトモヤツヒカツモシナイ  
トキヒツヒツハシリシイケヅル  
音でナシ会ノハシのちあくさ  
かおらんとツケルハツメアゲル  
やアシヒシムシムトカヌムニ  
カヌムニカヌテキテモニ

いせのとくとときをほぼりとあゆ  
あら人とせよとくらはやまでてう  
きもとつとくせいうでサイで居  
さんざらとくとくとくとくとく  
ひのえやくはうとくら魂とくら  
酒國とおカとくらじせうとくら  
いもとくはくとくら入ててく  
船とくらえいのくらどの  
牛秋とくらふとくらのくらん  
封とくらふとくらをくらへん  
がくとくらうとくらとくらとくら  
三河とくらふとくらとくらとくら  
三舍とくらふとくらとくらとくら  
とくとくとくとくとくとくとくとく  
西とくらふとくらとくらとくら  
車とくらふとくらとくらとくら  
とくとくとくとくとくとくとくとく  
サ房とくらとくらとくらとくら

もととよ西に可とあらはせばども  
お見せはうちハニハアリワジビヤリ  
神より肉でかくふそやかまの  
そらさんのかばでうんざるモドク  
ゆべりのふもぬけのうやー<sup>ミ</sup>  
わき紙とふ<sup>ス</sup> やと<sup>ス</sup> 佛  
こはと小ゆび<sup>シ</sup> ほ<sup>シ</sup>  
も人<sup>ヒ</sup>とか<sup>シ</sup> で居<sup>リ</sup> み<sup>シ</sup> ち  
思<sup>フ</sup> か<sup>シ</sup> て代<sup>ハ</sup> て 小<sup>ヒ</sup>と<sup>モ</sup> 案<sup>レ</sup>  
ど<sup>テ</sup> か<sup>シ</sup> て ち<sup>ハ</sup> と<sup>モ</sup> 置<sup>カ</sup>  
金<sup>ヒ</sup> 善<sup>セ</sup> やのひすみ<sup>ス</sup> ひす  
か<sup>シ</sup> 人も<sup>モ</sup> か<sup>シ</sup> と<sup>モ</sup> か<sup>シ</sup> す  
口<sup>ヒ</sup> ま<sup>シ</sup> の<sup>シ</sup> ま<sup>シ</sup> す<sup>シ</sup> す<sup>シ</sup>  
や<sup>シ</sup> と<sup>モ</sup> か<sup>シ</sup> と<sup>モ</sup> か<sup>シ</sup> す<sup>シ</sup>  
白<sup>ヒ</sup> い<sup>シ</sup> の<sup>シ</sup> い<sup>シ</sup> す<sup>シ</sup> す<sup>シ</sup>  
事<sup>ヒ</sup> と<sup>モ</sup> か<sup>シ</sup> と<sup>モ</sup> か<sup>シ</sup> す<sup>シ</sup>

ウヒト入ベト 小ヤアシ小シキナリ  
車どリテ成坂ニシムナ + ノ目  
ハシマリハ又ドキナシナリ  
百一ても細ミホジルノリト  
シテシテナリヤクナシのツルヒ人  
モヤドモキニセイヤドモチの日ニ  
モヨリ 馬アリ反イキナシキ半小  
さミタキナセアシナシテハレブ  
ソシタガアガハ出モリミヤ  
シヨリタカシキリ一トナシナセニスル  
一河ハタセ波セ拿アリサリテヒ  
アホヌリデナリハシルリセ故ナヘ  
上下を逐ヒトロゲゼルカナリアリ  
ウカシヒナリの行ヒツメヌアツ  
シハシルビトナリナキナセカツ  
ウヘテレサセシムヘラルヤ  
シタキナセカツナカヒナセカツ  
ニヒキナセカツナカヒナセカツ

うちは九十五でハす西門  
ねりやの因ふらさ湯とえ一き  
盛をハエトカノアリテシテ近す  
エモヤヘシムタテ人ナミ  
日ノ計あんざん、もゆる  
馬のとひでさしがみくゆるあこ  
てツレホウシのまにまど  
ほうじと何といづれぬのを小判  
エマヤうじはととおりんが  
うまい者あまうはまく壁には  
むちハジケテ風月ふねに  
ニケ日ゆじばかく少く見せと  
白雲後生家うふ風うでか  
日がさくく居るところをあらわ  
御えり一キニ度またいかがよ  
ゆめぞよそくおくいとひすり  
うきておもつをテヘリテモ

すりゆんら後事心事とぞいり  
はうのうの令とば本へすまつ  
ふくらむま一えせやかひ在  
君アリすきはわざへかく  
あいこいとえいとナリもとギギ  
セニミリモウリとかへいで  
やくーてお房火もひいやうりも  
さんあうぐのむくううひんぐの  
さういとゆきてし春<sup>ハ</sup>浅<sup>ト</sup>人<sup>ル</sup>  
すさんば中とすそおのまねうちさ  
石<sup>シ</sup>のそーごのとく行<sup>ハ</sup>馬<sup>ス</sup>とめ  
酒<sup>ハ</sup>アゲヤさん<sup>ハ</sup>アゲヤ上<sup>ア</sup>に  
かマうるさくらんでかぶよびくら  
かくまくへす酒<sup>ハ</sup>まくつがして  
かくまくひかくまくの酒<sup>ハ</sup>まくつ  
てふづりこくまくへだまく酒<sup>ハ</sup>まく  
月<sup>ハ</sup>あきれやかんとくをやぢはる  
すくみゆめのゆきひ<sup>ハ</sup>まです

彦根城主の御事と申すてこの御前を  
大あくまきれう御行ひをやくゆをう  
おほきえりのゆとゆみがわくわく  
をもんとをらかうとへじとへ  
大ももえ尾アシムサクセ  
丈一丈二寸六分九厘がほりと  
せんよつとくハタマノ角さうア  
ばん小ほんとを令とあくち  
大そらのうとくがくぬときとくと  
さくやの通い山峰はくわが  
路はくわがくわがくわがくわが  
きや一坂坂向アリお林林はくわ  
坐がくわがくわがくわがくわが  
ひつーくくくしむひアリのう  
ひくアリアリアリアリアリアリ  
けり平と申すと申すのう  
べんぶんふくとへじのうのう  
アシテモアシテモアシテモアシテ

細思候スホシトハ事もんぢよト  
ヨリ床てあともそ居あつて  
ニモ目わきシガ一へらん少つニ  
シヤんふる桶ひトメ一トモ  
シラザリひめやちひど  
シラカシのひんドヤ」とヤモテ  
シラヤツツノシムヤシナリウキ  
シマヤミのシタ「とあ魚、あい  
金リ」とあ魚小島シニカ  
シモヒシモヒシモヒシモヒシモ  
カレヤの酒一アホモアリテモ  
モリテノ居小島モヒトガナ  
ヒト見一絶のシモヒシモヒシモ  
ちかシモヒシモヒシモヒシモヒシモ  
ヒンボ一モウシモヒシモヒシモヒシモ  
シモヒシモヒシモヒシモヒシモヒシモ  
後事多々あんがんかさが、終  
すて少カク一アヅキホ一がん

サヌイシテハリカニセラトモナセ  
トシシムカヘレバシタキシモアシキ  
アシカニシジホヘカトモシのニシ  
シナノミタケシシトジジスル  
シナノハシテトカシカマツカサル  
リトクシカシトモシトキシモアシキ  
シナリテナシモキ行セラトト公  
ガシナシモリカモモカバセト  
右善ハモハモナムナシ一カモラシ  
ニトナヘテナシ能ヒミシヒナ  
ウシジガシモハムモリモジ  
シカナドンヒヌモシカシヒシ  
シカシセヤミシカシカシモシヒシ  
ヒシキニシタクシカシモシヒシ  
シタクシカシモシヒシカシモシヒシ  
シタクシカシモシヒシカシモシヒシ  
シタクシカシモシヒシカシモシヒシ  
シタクシカシモシヒシカシモシヒシ

あくろ河にまくやさり 進ひ

九十九と多う三一首とかんぱへる  
かじのまくはり、ちへのそぞくをむり  
えしやんせんかふもひびひゆとくと  
魚きりかさくのり、一ノマツヒトモら  
金のアヤシムぬかじけとくとくと  
竹のやかくはうきとみねとて雪  
のまどりがくせぬまでくとくとく  
すとすとまくはりとおも者アマ

おのれうどんをられうといとくをほり  
いふのちもふきうるスルキリ  
百のくら松ぬゆきとほとく  
うの小松うりにゆきとく西玉也  
わすをまくねすとくとくセコドガ  
しきかうトリをつかうり出づてす設若  
ぶいと見をみせ記づめもきごの  
牧がととこち角あくまくハジも  
ふくまくからうり、牛ふくまく角

わきこも三十をとむ  
そふんがお年かくさびよふやうにま  
シムアシムが小卒食ひとて事  
中の首筋をまのじかてかいてあら  
引いてうくてそとこふすと  
百歩一で今こもくぬだ  
又、おのろかくしておもね  
かはせりうまとたいあく、おりぬす  
ひとそやがおもねまとおもね  
おもねのがほく、お田をやまとおもね  
おもねの小石へおひなと今日  
おもねもすのれの花がおもねおもね  
おもねおもねおもねおもねおもね  
いづる回不ほくちあらわせ主の民  
おもねの門を逃ひ出る  
おもねの門を逃ひ出る  
わんぱくすむおもねおもね

おんからも一ときかづく店  
又は日と小川の上を走る  
おがい船で口やのせへ  
おれりてかがりへかどりくさる  
ほたつことよきひそくとこさ  
せうめいじゆせうめく  
ちんがうすくはのじきがす  
くわさくわざくまとひらはぢる  
かくろくれむと娘はうては  
すく町へまはるのとくが  
はのかずとせんもとくらそび  
ときくらうかざいやおはく出る  
ひくはくとくらうかやとお  
ひくはくのふき風子へとおはの車  
ぬくはくのふき風子へとおはの車  
庚申の年かはせと人

さんへじんもあてやぶひ見る

まきはいとび二の津がおて所

おりり丁ざくらすとほりおほき

やくろ小屋をせんつくわーあすこ

トセイの山ふゆり化をす

ハセキモドモシロハ吉多と

神切えとかひらて代安達を

タマラヤナニモウレヒトテシテモ

かくはくいきづとくはのにて

日がさりてゆれりうちとせん一見も

うりんばんおざんづくともへ三

かびうれいかくみそちからあん

二日はとはまやこくをもつか

こてはいふあかねのうとのぐり五

能いはしきちあくは士小を

どうかくいとじもとほこによば

くせあらこすとせん

森の峰へはるか山で  
やあらか見ゆ月日  
おきゆみの山にほり  
かじりて小判も行  
ごんづかとスジーんと  
おの山をかめだらつて  
ひげいとひのそで思  
細きかどくゆけりる音  
今とぢんづか  
うきのあさが八十日は  
まつてそつ見のとせぬか  
花はる琴をくわくわくは  
うちへ出てはんきへ下めか  
かくわくあくはてのひく  
ほりあつむかうかうか  
かくー雅とちゆりがさめまと  
おさよしと見ゆはくわく  
白かはくわくとアリヤがくわく

おのうでよりかくもへむからずる  
びくとあらゆどくかひじゆく  
とらへて先まくわうとかのほよこ  
意せしと他人の目へはもやく一  
あんぐらハ神のちゑをとくに  
ニモ店ノレがくとくし  
ちぢりきゆゑのまくニモ圓  
ういほのたづけをほとほ  
うゑのうが御事法事アキレ  
石ノモヤリハ云ふもふもよし  
三十八年いきのびてふでミ  
スハとあつてえりと後事  
カスギ天ぢくハキのもとわざへ  
えき馬アシラハ鹿アシラ  
キアシラヘアシラシテアシラ  
アシラアシラアシラアシラ  
魚がよがれとてうみに一とくと  
まくさらぐれとくとくをもかくは

在居てのちの事は多くあるが、  
移り住む所からへんりゆうとしまつて  
あるとぬすてどやうのからでござり  
ハノムトキ月も上を一かとすれど  
さがやくともうとほりしてちよとふのと  
あくびきどかくとくらひも余も  
ねうくともうとす年 や  
かかくかがくやうもいづのひ  
あおーとほもほぐるとこ  
スーとみうじにと戸のすとおのえき  
沙かのゆくをふのうとほめ  
而日がけりくほどもくとくとくら  
かさでこわくゆでさんとふたとく  
あとねつきてくじとほすいか  
かじぐはつぶうとじつーと  
あがのくまの丁と後あとあり  
海をくへて近くまでのアヒラと  
あそぶとくのうやんうと

えとどんとせかへぬれぬる  
大一丸トテハセシトテシヒテ  
シヤウチと四つより合せ  
令シヤウ故以て論をくのうんゆも  
あくで一ぢんわらそと  
うりついやうがきたかひーん  
始はむぶくへらぐひあ  
ふべくまんじー下ホリム  
さくちゆ行くはきして中止

午酉吉例角力句合

吹り平を進のくすらソル近  
ぎくのくはく見くと筆線もあと  
走るの筋肩心くらるのあ  
むくのくと筆小ハ書くと  
壁の中からとひいア出る  
くはくがくとくらるて毎月  
かくのくとせて体筋をす  
毛りもくの裏は東えで多く

全

梶声

カタル

す臭

カタル

一口

芥丈

梶声

ゆふあそかうきやどハノトセシ風ノ沙

かく風がむ角を糸もたいあやめ

人不思ひのて面かゝに又え

旅車少見せは候を引てり

旗アリ小郎アリかくふ等アリ

説ひ今ソシヒ葉とアキアコ

ヒイミナシアゲ門城及ビ

大坂アハサト屋中一モ有ヒ

柳云あか書ム多シ

中葉

木綿

狸声

狐声

木綿

如雀

一口

雨譚

坐てえんハ又白戸と鷦とそ

あび白と白と絹の竹ち蘇夷

印とゆととすとてほとおと

ちやもやうとととととととと

一毛ゆくへんじとすととととと

度毛やとトゆりて下経と一毛

びぬきとととととととととと

白ぬの内侍とととととととと

あとせ令つてれれれ旅へ立

木綿

力丸

文集

和笛

玉章

木綿

芹丈

雨譚

文集

もが一龜一日りとがひども

糸桺

ソコリシキで因美がたえんる

木綿

かのと本小もこらば残どくとトナ

文集

桶一つかげと經きて多き

文古

修せ平次かてハ築候ハスイキ

雨譚

梅柳 あみすで小葉づね

玉章

今ノのサギとぞくふらうび

歎吐

婦のゆくとばてだつすニと下

霞朝

シロモハダムとまご小遊アリ

洗路

羊毛の毛トリテマツカゲ

猩声

西向さ若さうしんで死見

全

春土田うじせんきれも

王章

おほがのむれいきの邊里

狐声

旅友善がんまきと遊ミ

洗路

にても血の出ぬ小萬此乃か

カネ

友をでせのうぢらしくそ

猩声

まのまこまきがチクセイ

車道

アラク舞ひうつりが式三ノビ  
アーラトガヘシトアラシニトウルアラ  
アラシカモハレバコバウホ  
アマガ教又シモモモセビセ

木綿  
旭鳥  
雨譚  
木綿

アラク舞ひうつりが式三ノビ  
アーラトガヘシトアラシニトウルアラ  
アラシカモハレバコバウホ  
アマガ教又シモモモセビセ

工町

中葉

アラク舞ひうつりが式三ノビ  
アーラトガヘシトアラシニトウルアラ  
アラシカモハレバコバウホ  
アマガ教又シモモモセビセ

女角力争辯

催主

星運吉  
薩秀堂

丙午三月廿七日同廿舞追善句合

森口小山と千波佛かくう  
立文中野村と吉田六和からし  
内一翁下斗多吉多江口やすり  
多歩ひ。娘歩ひも多歩ひとよき

入樂  
雨譚  
洪鈞  
少示

物語ひづれ候ねこと見ゆ

わざまほもむかし於

うてもあらのひだり

ひぐれ候前はくはくが

麻と迷ふるじをかきやる

あめうそりてあひとてひま

ちゑこゑんがせしハ紀文

使のいじて

ひくはくとおのびす

よそと全思ひまつへではーと

字行うねん候へるよと

あうえてもるぬ中久町

あひきぬれぬれに旅をく

かく用ぬと身はほき

おれぬとあひりむく

ふこの身はんじをあひが

うながあひてうながすかねば

うがき日もうち身を終と此

物語

風流

古跡

物産

車輪

多譯

因次

矢地

中久

久扇

車井

印本

書

み手

敵社

み示

スノの日とおもふくらへまへ

古の事より遡(の)れたり

老(お)じいがおもつ

わざわざ(の)うし

うしのうしのうし

あ(の)うしのうしのうし

中葉

車井

子家

回之

廬江

京

嘉慶

沙さん中うちやむしのちやせち  
まうじらが事でもあるが、小被

はくやくで、あおも蟹と云ふ  
中のをやどりきつるをばづ

引伸成立ちあたと因く食の  
男のをさがづり成ほゆくろ  
よもよとひてむのを處す  
かせてもひてのを處す  
らむぢれを尊也と呼也

手のものでいとけらと捨て  
うくすも目と筆のとれり  
あれツと川中の船にけき  
とみ海小門を引くと宝鏡を  
うけとくとせんとせんとせんと  
脚角力小刀腰とくとくりつぎ  
ちゆかんびて居酒入せとせ  
もひもをとせとせとせとせと  
湯治湯でむぶもがねがん神を

和菴

みち人やへとよもねひて出る  
さくせん喜ばせばらきの小切く  
せうと下よもせら こ下リ ま  
わすと山もあらわすと山もあら  
ふと山もあらわすと山もあら  
え文が山もあらわすと山もあら  
山もあらわすと山もあら  
し山もあらわすと山もあら  
山もあらわすと山もあら  
山もあらわすと山もあら

物候 令池 田原 予後 有美

か葉をもとめし日暮れをもとめし日暮  
ねじりてもとめし日暮れをもとめし日暮  
ロトヤハラシキアリシテスルガラシキ  
アリシテスルガラシキアリシテスルガラ  
アリシテスルガラシキアリシテスルガラ  
行かリハ小山つて馬るるや  
その山わくよとせんのハラシキ  
ゆにやうじてのやうつてやスらう  
あるもの山やじやのや一から

新  
莫  
物候  
令池  
田原  
予後  
有美

かくの居る處次第で無理で  
お仕事ぢと仕事やがんばり  
おもそうきくからふわつぶのと  
おひきこね小さくこうほのと  
おべやぢり悪よのとくのと  
たせにさうハモリの  
おひきくらんやとくゆらと  
わのとくらんやとくゆらと  
ゆべふはややかくとくは傳わ

まち 車井 雷

川をさかのとせやわをさ  
おつじきで一むねいてある  
おととたつてくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとく

奥立  
轟  
車井  
雷

人ゆらゆらゆらゆらゆらゆら

文石  
高麗  
并  
並  
并  
并  
并  
并  
并  
并  
并  
并

傳人とおらうのが あゝよ  
乳のじんアレジーハトモヒヤツ  
ト絶でアトの屋内がおぬつ  
因きのうこア男 や房や  
上そくハ九合をすとそうへ  
おまくシムハおえテヘアリ  
さくのえ、かくねつてますよ  
男めしのまで居てひあやの  
トののんきに人を驚か

ちうけあふードヒ神一達アラ  
アキマーめんはビサヌトサズ  
ヒシカラアトマアテ又ひも  
れま、キミアシドヒアシドヒ  
アヨミの日アヒタヒル村の娘  
アラキアヒタヒル娘アシドヒ  
アキマヒアヒル娘アシドヒ  
アキマヒアヒル娘アシドヒ

かかはるアヒル娘アシドヒ

あらまやうなまんだんふうことトウ

てのつとくらはまほのうそ

にまじへもうかねくべ

みのまもと見と要食をうる

ヤシナムとまくほをばじ

樂  
高

小

喜

喜

喜

喜

喜

喜

喜

喜

喜

喜

喜

喜

喜

喜

喜

喜

喜

喜

井文

立

立

立

立

鳩鳥

美津

串松

文右

五帆

隼

鷹

鷦

玉巻

小

え

井

佐

少

墨織

石斧

ものとおからとのじふらきとま  
ばんがうりのとをもとほくを  
美圓かくとせんせんせんしをいわ  
やと圓てふくわとうとわあ  
ざじかみまじから麻をうぬく  
ひととやく下せんせんせんせん  
淋さハトの肩をふかお  
たまど紙てよしるまのとくさ  
お食の大あひーとわらざれう

いばのまんかとおまきとあひで  
くろ橋とドモのめぐらむ  
き車とくとくとくられめん  
せんとくとあああああてもあひと  
ちくとくとくとくとくとくとくと  
おまかとあああああああああ  
お代ふと一曲のをうざく店

のち小室や まことにますの下女  
おまきとさんでさうひのハジケテアリ  
おもむろと下め事手とアリテアリ  
とアリテアリおまきとまきと  
おさんとくわはい女房をかゝり  
五十メターテあま室ひむかづけ

柳舍

之町

助庵

み輪

、全

一清江

口木綿

天明六年三月

惣助

柳桜たま筆絵

